

小児正常臓器の Glypican 3 発現に関する研究

1. はじめに：

Glypican 3 (グリピガン 3) は細胞増殖などのさまざまな経路の調節に関与しているといわれており、一般には、栄養膜や胎児組織に正常発現しているが、成人の組織には発現していないといわれています。

また、この Glypican 3 は近年、肝細胞癌や肝芽腫、肺扁平上皮癌、卵黄嚢癌といったさまざまな悪性腫瘍で発現が報告されています。そのため、Glypican 3 を標的としたペプチドワクチン療法の可能性や新規腫瘍マーカーとしての可能性が考えられています。実際に、成人の肝細胞癌では、少数例で Glypican 3 ペプチドワクチン療法が施行され、奏効例も認められています。

しかしながら、小児がんにおいて、新規腫瘍マーカーとして使用、また、ペプチドワクチン療法を行うためには、小児の正常臓器で Glypican 3 が発現していないことを確認する必要があります。

本研究では、小児期の正常臓器の glypican 3 発現について検討します。

2. 対象：

胎児期～10歳までの九州大学病院で病理解剖もしくは手術により提出された検体の非腫瘍性正常組織

3. 研究内容：

上の組織に対して、glypican 3 のタンパクが発現しているか否かを確認するため、免疫組織化学染色という方法を用いて研究を行います。

尚、この研究を行うことで、患者様に余計な負担は生じません。

4. 患者さんの個人情報の管理について：

本研究では個人情報漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データの数値化、データファイルの暗号化など、厳格な対策を採っています。本研究の実施過程及び、その結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

対象となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

5. 研究期間：

研究を行う期間は承認日より 2012 年 3 月 31 日まで。

6. 医学上の貢献：

研究成果は Glypican 3 陽性腫瘍における新規治療法を、小児例にも適応できる可能性があります。

7. 研究機関：

責任者 九州大学大学院医学研究院保健学科・准教授・木下 義晶

分担者：九州大学大学院医学研究院形態機能病理学・准教授・小田 義直

九州大学病院病理部・医員・孝橋 賢一

国立がんセンター東病院・臨床開発センター・

がん治療開発部・機能再生室・室長・中面 哲也

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

Tel. (092)642-5573

担当：木下 義晶